第11回全国和牛能力共進会を終えて

畜産研究所

平成29年9月7日から11日にかけて、全国和牛能力共進会(全共)が宮城県仙台市で開催 されました。全共とは、各県の和牛改良の成果や技術力を比較するため、5年毎に開催されている 別名「和牛オリンピック」とも呼ばれる共進会です。

本県では、前回大会である長崎大会で初めて全区(第1区~9区)への出品を果たし、今回は 5年の準備期間を経て、大会に臨みました。

種牛部門

子牛を生む母牛、もしくは種雄牛の部門

- ◆当研究所では、若雄(第1区)の部に 種雄候補牛「情奥勝」号を出品しました。
- ◆順位は1等賞7席とふるいませんでしたが、 審査会場では当所職員の引きつけの下、堂々 と審査を受け、調教技術においては他県など からも高い評価を受けました。
- ◆その他の出品区においても、当県出品者の 調教技術は評価され、これまで当研究所で 現地に出向き、指導を行うなどして、県 全域を挙げて取り組んだ成果が発揮され ました。



全共審杳会場で体型審杳を受ける「晴奥勝」号と 調教を担当する当所技能技師職員

肉牛部門

各県の種雄牛の産肉能力比較の場

今後の活躍が期待される新規の種雄牛(第8区)と、 現在活躍中の種雄牛 (第9区) の2部門に分かれて 審査。

(実際の審査は、種雄牛の産子 (肥育牛)の肉量・ 肉質が評価される)

- ◆本県からは、種雄候補牛「広清」、基幹 種雄牛「光茂」・「平安平」の産子の 枝肉を出品し、結果は3等級が1頭、 4等級が2頭、5等級が2頭という 結果となりました。
- ▶今会は前大会以上に、生産者・関係団体・ 行政・研究所が密に連携して取り組んで きましたが、出品牛が決定してから、出品 までの1か月の連携をさらに強化するなど の課題が見つかり、次大会に向け関係者全 体がより奮起する大会となりました。



種雄候補牛「広清」







第8区出品牛「広清」産子の枝肉 (左から: 4 等級、5 等級、5 等級)